

**BỘ GIÁO DỤC VÀ ĐÀO TẠO  
TRƯỜNG ĐẠI HỌC QUẢN LÝ VÀ CÔNG NGHỆ HẢI PHÒNG**  
-----



# **KHÓA LUẬN TỐT NGHIỆP**

**NGÀNH : NGÔN NGỮ ANH – NHẬT**

**Sinh viên : NGUYỄN THỊ LINH  
Giảng viên hướng dẫn : PHẠM THỊ HUYỀN**

**HẢI PHÒNG 10 – 2020**

**BỘ GIÁO DỤC VÀ ĐÀO TẠO**  
**TRƯỜNG ĐẠI HỌC QUẢN LÝ VÀ CÔNG NGHỆ HẢI PHÒNG**

-----

**盆栽—日本の苗床の魅惑的な美しさ**

**KHÓA LUẬN TỐT NGHIỆP ĐẠI HỌC HỆ CHÍNH QUY**  
**NGÀNH : NGÔN NGỮ ANH – NHẬT**

**Sinh viên : NGUYỄN THỊ LINH**  
**Giảng viên hướng dẫn : PHẠM THỊ HUYỀN**

**HẢI PHÒNG 10 – 2020**

**BỘ GIÁO DỤC VÀ ĐÀO TẠO**  
**TRƯỜNG ĐẠI HỌC QUẢN LÝ VÀ CÔNG NGHỆ HẢI PHÒNG**

---

**NHIỆM VỤ ĐỀ TÀI TỐT NGHIỆP**

**Sinh viên:** Nguyễn Thị Linh

**Mã SV :** 1512753014

**Lớp:** NA1902N

**Ngành:** Ngôn ngữ Anh – Nhật

**Tên đề tài:** 盆栽—日本の苗床の魅惑的な美しさ

## CÁN BỘ HƯỚNG DẪN ĐỀ TÀI TỐT NGHIỆP

**Họ và tên** : Phạm Thị Huyền

**Học hàm, học vị** : Thạc sỹ

**Cơ quan công tác** : Trường Đại học Quản lý và Công nghệ Hải Phòng

**Nội dung hướng dẫn:** 盆栽—日本の苗床の魅惑的な美しさ

Đề tài tốt nghiệp được giao ngày ... tháng ... năm 2020

Yêu cầu phải hoàn thành xong trước ngày ... tháng ... năm 2020

Đã nhận nhiệm vụ ĐTTN

*Sinh viên*

Đã giao nhiệm vụ ĐTTN

*Giảng viên hướng dẫn*

*Hải Phòng, ngày ... tháng ... năm 2020*

**TRƯỞNG KHOA**

# 目次

ありがたい	
はじめに	1
内容	1
I.日本の盆栽の概要	2
1. 定義	2
2. 盆栽の歴史	3
3. 盆栽の意味	5
4. 日本に盆栽展覧会	5
4.1. 玄光会展	6
4.2. 国府展	6
4.3. 大観展	8
5. 日本の盆栽イベント一覧	8
II. 盆栽の形成基盤と手入れ方法	10
1. 盆栽の形のスタイル	10
i. 箒立ち	10
ii. 斜幹	11
iii. 模様木	11
iv. 斜幹	12
v. 吹き流し	12
vi. 懸崖	13
vii. 石上	13
viii. 双幹	14
ix. 寄せ植え	14
x. 寄せ植え	15
2. 必要な道具と盆栽のお手入れ方法	15
2.1. 必要な道具	15
2.2. 盆栽のお手入れ方法	16
2.3. 植え替え時期	17
2.4. 剪定方期	17

3. フライング盆栽 - 日本のユニークな発明	17
III. 日本の盆栽と他の国の違い	19
1. 盆栽の国の共通点 <small>きょうつうてん</small>	19
2. 盆栽の国の違い	20
2.1. 日本と中国の盆栽比較 <small>ひかく</small>	20
2.1.1. 中国の盆栽について	20
i. 揚州派 <small>ようしゅうは</small>	21
ii. 嶺南派 <small>みねみなみは</small>	22
iii. 蘇州派 <small>そしゅうは</small>	22
iv. 四川派 <small>しせんは</small>	23
v. 上海派 <small>しゃんはいは</small>	23
2.1.2. 中国の盆栽は違う	24
2.2. 日本とベトナムの盆栽比較	24
2.2.1. ベトナムの盆栽について	24
2.2.2. ベトナムの盆栽は違う	25
結論	27
参考文献	28

# ありがたい

最近の卒業論文を作成する間に、私はたくさんの助けとじぎ、時宜を得た支援を受けて、割り当てられた卒業課題をよくしゅうりょう、修了するためにすべての困難をこくふく、克服するようにしょうれい、奨励しました。私は本当にありがとうございます。

まず、ハイフォン工芸と管理大学のグエン・チエン・タン（Nguyễn Tiên Thanh）校長にお礼を申しあげたいと思います。次、私はチャン・テイ・ゴック・レン（Trần Thị Ngọc Liên）学部長をはじめ、ハイフォン工芸と管理大学の外国語学科の先生に感謝することを表したいと思います。レン先生は価値のある情報、タイムリーなサポートと熱心なガイドをていきょう、提供してくれました。ですから、私が卒業できました。

特に、私は4年間教えて、3ヶ月間私の論文を作成するのを指導してくれた日本語教師のファム・ティ・フエン（Phạm Thị Huyền）先生に非常に感謝しています。フエン先生は熱心な先生で、忙しい仕事なのに、できるだけ多くの学生を支援するために自分の貴重な時間を調整しました。先生は心をこめて教え、それぞれの間違いを細かく修正して、それにフエン先生に多くの役に立つ知識を与えました。そのおかげで、今日、私は学校が割り当てた卒業の仕事を完了することができました。心からお礼を申し上げます。

本論文は多くの欠点があるかもしれません。私は先生からのご意見を受けたと思います。

まことにありがとうございます。

学生

グエン ティ リン

# はじめに

幼い頃から、面白いアニメを通して日本のある地域ちいきを知った。文化への愛情、フータンの国の人々が染みついていて、徐々にそのように私の心に浸透しんとうした。そして今、私の好きな国の言語を勉強している大学生として、私はより多くを学び、学ぶ機会がある。

私は語学留学生として、その言語を学ぶだけでは十分ではないことを理解りかいしている。言語学習に加えて、その国の文化、人々、習慣を理解することも重要な部分だ。それは私がより多くの知識ちしきを得て、より速く学習を楽しむのに役立つ。それで、4年間、私は伝統的な日本語と文化についてもっと学まなんだ。それ以来、専攻せんこうはますます好きになった。

日本は桜や富士山だけでなく、人とのユニークで多様な文化たようの発祥地はっしょうちでもある。卓越たくえつした近代的発展きんだいてきはってんとともに、日本は常に文化的伝統いじを維持している。

日本の文化は常に芸術げいじゆつの独自の卓越たくえつした持っている。相撲や折り紙や着物や生け花など。特に庭園の芸術。その中で私は盆栽ひじょうの芸術に非常に感銘かんめいした。盆栽の美しさは超簡易だ。盆栽は人々にミニチュアの自然の写真を視覚的に与える。盆栽を見ていると、落ち着いたひとときを過ごしたり、一日の疲れを解消かいしょうしたり、人生の悩みなやを忘れてたりできる。

このエッセイでは、盆栽の歴史、由来、栽培について紹介した。同時に、日本の盆栽とベトナムの盆栽、中国の盆栽を比較する。そこから、各国の盆栽アートのハイライトを見ることができる。

# 内容

## I. 日本の盆栽の概要

### 1. 定義

古い鉢植えの木を表すためのこの二文字の漢字は、芸術的としての名前を付与するために採用された。盆栽の定義は次のように説明することができる。

# 盆栽

「ボン」は皿や薄い入れ物を表すもので、「盆」と書く。

「サイ」は「栽」と書き、植物を表す。

「盆栽」はこのように「容器に植えられている木」を意味する。

盆栽は小さな観葉植物で、古代の形、ポットに植えられた。特別な方法でトリミングされ、形が整えられており、すべての美的要素と自然な印象を利用できる。または言い換えると、盆栽は狭く縮んだ自然の樹木または樹木群であり、古代の特徴が残っており、特定の技術と芸術でポット、トレイ、または岩に植えられている。したがって、人々は盆栽は芸術であり、生命の作品であり、生きている彫刻であると言う。

日本人は盆栽を 17 音節しかない古典的な詩の形式である「俳句」と比較することが多く、簡潔に表現し、豊かな感情的または精神的な状態を隠している。盆栽は芸術と園芸の調和であるため、単一の芸術形式であるという認識もある。盆栽は美の芸術であると言う人もいる。盆栽は園芸の典型的な形だと言う人もいる。

## 2. 盆栽の歴史

盆栽の芸術は、初期の漢王朝（紀元前 206 年頃から 220 年頃）に登場した。その後、秦王朝（紀元 3 世紀）に、古代の絵画や彫刻の作品に盆栽が登場し始めた。

まず、盆栽が宗教的な贈り物として、少なくとも 1200 年ほど前に中国から日本にもたらされたと考えられている。日本での描写は約 800 年前の段階まで確認されていない。この頃の日本はすべてにおいて中国の影響を受けており、中国の仏教（インドの瞑想仏教が中国の道教と交じり合ったもの）も輸入され、後に日本で禅仏教となった。貧しい武士が、寒い冬の夜に旅の僧侶を温めるため、三本の鉢植えの木を燃やしたという 1300 年代後期の言い伝えは能楽の演目「鉢木」となって人気を集め、その後数世紀のあいだ、木版画や絵画として描かれることになる。



盆栽”春宵 梅ノ宴”、製作年代（1847 - 52）歌川豊国

農民から将軍まで、誰もが鍋や鮑の殻に何らかの木やツツジなどを栽培していた。18 世紀後半には、伝統的な松の小型鉢植えの展示会が

京都で毎年開催されるようになった。近隣に住む目利きたちは自分の植物を鑑定してもらうために、木を展示会に持ち込んだ。高松（鬼無盆栽村の所在地）は、このころからすでに小型の松を多く育てることで生計を立てている土地になっていた。

その後、盆栽は日本画や文学に多く登場した。

鎌倉時代（1192 - 1333）は芸術と日常生活に大きな影響を与えた。宗教的なテーマは盆栽の創造に影響を与えた。盆栽は生活芸術ではなく自然の宗教的なシンボルとして屋外に表示された。

室町時代（1334 - 1573）は完全に日本の芸術的な禅のテーマが現れ始めた。建築、風景、生け花、茶道などに表れる瞑想思想。室内にはこの時代の小さな盆栽が展示されていた。

江戸時代とも呼ばれる徳川時代（1603 - 1867）は多くの図鑑に記録された盆栽の黄金時代であり、自己を自然に溶け込ませるといふ仏教の哲学が、盆栽の芸術のテクニック。険しい島の崖の上にある美しい自然の小人の木を探して、盆栽コレクターが現れた。盆栽は絵画、木彫、俳句、茶道、生け花などのテーマとしてよく使われます。繊細で深みのある静寂、美しく控えめな形が今回の盆栽の特徴だ。

盆栽のさまざまな大きさや樹形は、次の世紀に発展して行った。樹や道具、および鉢に関するカタログや書籍が出版されはじめた。そしていくつかの公式な展示会が開催されるようになった。木を整えるために、麻繊維に変わって銅と鉄ワイヤーが用いられるようになった。中国で日本仕様に大量生産されるようになり、愛好家の数も倍増して行った。

1923年に起こった関東大震災の後、専門の盆栽生産者の三十あまりが大宮に移住し、後に日本の盆栽文化の中心となる大宮盆栽村を作りあげ

た。1930年代には盆栽の正式な姿<sup>すがた</sup>や飾り方<sup>かざ</sup>が広く認知されるようになり、東京都美術館において公式の年次盆栽展<sup>てんかいさい</sup>開催<sup>きよか</sup>が許可された。



第2回国風盆栽展, 1934年12月

近年、盆栽はしばしば、単に年配者の気晴らしのための趣味などと考えられることもあったが、最近では若い世代の間でポピュラーになりつつあり、管理の簡単な小さな樹や景色を感じるもの、土地の樹を使った素朴なものなどが好まれている。

### 3. 盆栽の意味

盆栽は室内や庭で飾<sup>かざ</sup>って楽しむ美しい観賞植物<sup>かんしょうしょくぶつ</sup>だ。また、盆栽には盆栽が生きてきたように元気に生きなければならないという深い意味<sup>ふか</sup>がある。人が人生の決意<sup>こじ</sup>を固持<sup>こじ</sup>することを奨励<sup>しょうれい</sup>する木のイメージを使用する。盆栽の美しさは根や身体だけでなく、人類の創造性<sup>そうぞうせい</sup>、意味、価値にもある。盆栽の精神<sup>せいしん</sup>の核心<sup>かくしん</sup>は人々を自然に近づけ、自然を愛する努力<sup>どりよく</sup>であるとも言える。概要<sup>がいよう</sup>、盆栽を精神的に豊かな人生のひとつととらえている人もいれば、余暇<sup>よか</sup>の趣味だと考える人もいる。

### 4. 日本に盆栽展覧会<sup>てんらんかい</sup>

芸術的美<sup>じょうねつ</sup>の情熱<sup>こじん</sup>は個人の魂<sup>たましい</sup>から生まれる。芸術的な美しさの前に立って、人々は再び若いだ。同じ美しさは地方からの見知らぬ人、または

たいりく 大陸からの<sup>こくさいてき</sup>国際的な友人をより近づける。そして特に、芸術的な美しさの前では、<sup>ぜったいてき</sup>絶対的な<sup>せいげん</sup>制限はなかった。

同じ<sup>じょうねつ</sup>情熱を持つ多くの人々のように、本が好きなグループ、写真が好きなグループ、そしてファッションも... 美と調和し、<sup>てんらんかい</sup>展覧会を通じて<sup>つう</sup>座り、<sup>ひょうか</sup>美を評価する人々、そして盆栽愛好家のコミュニティで盆栽の自然の美しさが起こらない理由はない。

#### 4.1 玄光会展

これは少人数のエリート<sup>ぼんさいそうしゃ</sup>盆栽奏者による展示会だ。この展覧会は<sup>ほうおさむいん</sup>法修院<sup>かいさい</sup>で開催する。寺の頭、清治氏さんはテーマに盆栽を<sup>ひょうじ</sup>表示する 11 室を<sup>せつけい</sup>設計する。この各<sup>かくくかく</sup>区画にはいくつ盆栽を置く。



<sup>ていしょうど</sup>低照度の室に置く盆栽は観察者が木（および岩）の美しさを<sup>とうか</sup>透過して見<sup>かのう</sup>ることを可能にする。しかし、これもまた写真<sup>と</sup>を撮るのを難しくしている。退屈<sup>たいくつ</sup>を避けるために、日本人はしばしば石や盆栽の木の展示と組み合わせる。これも良い考えだ。

#### 4.2. 国府展

<sup>こくぶてん</sup>国府展は毎年 2 月に東京で開催される日本で最も古く、最も<sup>けんい</sup>権威のある展覧会の 1 つだ。盆栽を意味する国府という言葉は日本の特別な文化<sup>とくべつ</sup>的、芸術的特徴だ。盆栽の初展<sup>はつのり</sup>のタイトルとしても使われている。毎

かいさい  
回開催される 200 以上の観賞植物があり、ほとんどすべての種とデザインが展示されている。



第93回国府展 2019年2月9日上野公園東京都美術館

この展覧会の盆栽は勝ったとき色紙が贈られる。色紙は黄色で「国風賞」と書かれた漢字が描かれている。国風賞は他の展示会に表示する際に盆栽と一緒に展示されることがよくある。通常、2月の展覧会から国府展の最優秀盆栽が来年11月に展示される。国府展は日本盆栽協会が主催している。しかし、教育省とNHKテレビと東京市が後援する。



上の小さいボードは重<sup>じゅうよう</sup>要な盆栽の傑作に指定されている。下の金版<sup>きんばん</sup>は  
こくぶしょう  
国府賞だ。

### 4.3. 大観展

たいかんとん  
大観天は日本で最大の盆栽イベントだ。毎年 11 月の終わりに京都の  
みやこせ かいさい  
宮古瀬で開催される。11 月の終わりに京都の紅葉<sup>こうよう</sup>は一番きれい。美しく  
有名で有名な盆栽がたくさん展示されている。そして、多くの外国人も  
参加した。大観天は盆栽をまきもの<sup>まきもの</sup>や水石<sup>てんじ</sup>で展示するかずすく<sup>かずすく</sup>数少ない伝統的なシ  
ョーの1つだ。



勝谷さんのジュニパーの木 - 2019 年に一等賞

## 5. 日本の盆栽イベント一覧

年間を通じて、日本ではたくさん盆栽展が開催されている。

- 1月 ア. さくふうてん  
作風展、東京。
- イ. がふうえん  
雅風園、京都府。 (1月上旬、日本最大展)
- ウ. こうしゅうてん かぬま  
甲州展、鹿沼。
- エ. めいふてん なごや  
名府展、名古屋。

2月 ア. <sup>こくぶてん</sup> 国分展、東京。（世界最大の盆栽展。）

3月 ア. そごう展、東京。（3月末）

イ. <sup>するがてん</sup> 駿河展、大阪。（3月末）

4月（イベントない）

5月 ア. <sup>おおみや</sup> 大宮盆栽祭、大宮（5月上旬）

イ. サツキ展、鹿沼。（5月下旬）

6月 ア. サツキ展、東京。（6月上旬）

イ. <sup>めいひんてん</sup> 名品展、東京。（6月中旬）

7月（イベントない）

8月（イベントない）

9月（イベントない）

10月 ア. <sup>わきみずてん</sup> 湧水展、東京。（サツキ展示）。

イ. <sup>きむ</sup> 木無盆栽展、高松。（10月末）

11月 ア. <sup>おさむがてん</sup> 修賀展、東京。（11月上旬）

イ. 盆栽展、高松。（11月中旬・下旬）

ウ. <sup>たいかんでん</sup> 京都大観店。（11月下旬、<sup>だいきぼ</sup> 大規模な展覧会）

エ. 九州みやび展、<sup>くまもと</sup> 熊本。（11月下旬、小さな展覧会）

12月（イベントない）

桜の国で行われている盆栽展を無視すれば、盆栽愛好家にとって抜群の手抜きと言えるでしょう。そして、盆栽展が行われるとき、どこからでも国際的な友人の注目を常に集めているのは見知らぬことではない。

展示会では日本の盆栽のプロ意識を感じる。これらは美しく、スタイリッシュで、ユニークな芸術作品と高度な美学だ。うまくいけば、これはベトナムの盆栽出展者のためのレッスンだ。

## II. 盆栽の形成基盤と手入れ方法

### 1. 盆栽の形のスタイル

形は盆栽の成長の全体的な方向に関連している。木の形が違うので、茎の形を変えて、違う形にできる。盆栽の樹形は自由な個人的解釈に創造される、必ずしも任意の形状にとらわれる必要はない。次は一般的な10種類のデザインだ。

#### i. 簪立ち



この樹形は枝が細かく分岐する雑木に適している。幹はまっすぐ直立で、およそ1/3程度の高さから枝となり斜上し分岐する。枝や葉は冬の間も見事な光景だ。ボール状の冠を形成する。

ii. <sup>しゃみき</sup>  
斜幹



この樹形は盆栽では非常に一般的な物だ。この樹形を盆栽とするには根元から樹冠に向かって細くなる状態をよりはっきりと表現しなければならない。幹は下部を太くする必要があり、樹冠に向かって細くなっている。樹冠部は単一分岐によって形成されるべきだ。

iii. <sup>もようき</sup>  
模様木



この樹形は自然の中や盆栽の分野で非常によく見られる一般的な樹形だ。幹はおおよそ文字「S」の形にし、枝分かれが発生する毎にターンしつつ上に向かって成長する。幹の先細りは高い部分よりも根元の部分に、はっきりと見えなければならない。

iv. しゃみき  
斜幹



地面を基準とし、盆栽樹形では、およそ  $60^\circ$  ぐらいの角度で傾く姿がよく見られる。盆栽では一の枝は、視覚的なバランスを保つために、幹の傾きの逆側にある場合が多い。幹は少し曲がっていたり、直線でも下から上に向かって細くなっていく。

v. ふなが  
吹き流し



この樹形も、生き残るための自然の厳しさが表現された樹形の良い例だ。風が一方から常に吹き、枝だけでなく、幹は片側に流されて成長する。枝は風を受ける逆の方向に多く成長するが、最終的にはほぼ一方の側に曲げられていることが多い。

vi. 懸崖  
けんがい



崖の急斜面に自生している樹々は雪や落石などのいくつかの要因の結果として下向きに曲がることがある。盆栽でこの姿を表現する場合は木が直立に成長しようとする自然な力に反するため、下向きに曲がった状態で木を健康に維持することは容易ではではない。懸崖盆栽は大抵、高さのある鉢に植えられ、直立に成長しようとする樹を下向きに曲げている。

vii. 石上  
いしがみ



岩場では亀裂や岩の隙間、穴で樹は生育している。根は土壌、水と養分を探し求め伸びている。根を日光、乾燥から守る必要があり、地面から上の部分の根は他の部分と同様に樹皮を持ち、根はあくまで土中のみとなる。

viii. <sup>そうみき</sup>  
双幹



この樹形は自然の中でも時々目にすることができるが、盆栽の分野ではあまり一般的ではない。通常、両方の幹は根を共有しつつ成長するが、小さい幹が大きな幹の真横に成長している。小さい幹が少し斜めに外側に成長し、2本の幹をくらべると太さと高さに差がある。両方の幹はそれぞれに樹冠を有し、なおかつ一つの樹形として構成されている。

ix. <sup>よ</sup>  
寄せ植え



この樹形は何本かの樹を寄せることで構成されている。主幹となる樹が中心寄りに植えられている。その周りに大小の樹が植えられる、自然な一体感が得られるように配置されている。

X. しゃりみき  
舍利幹

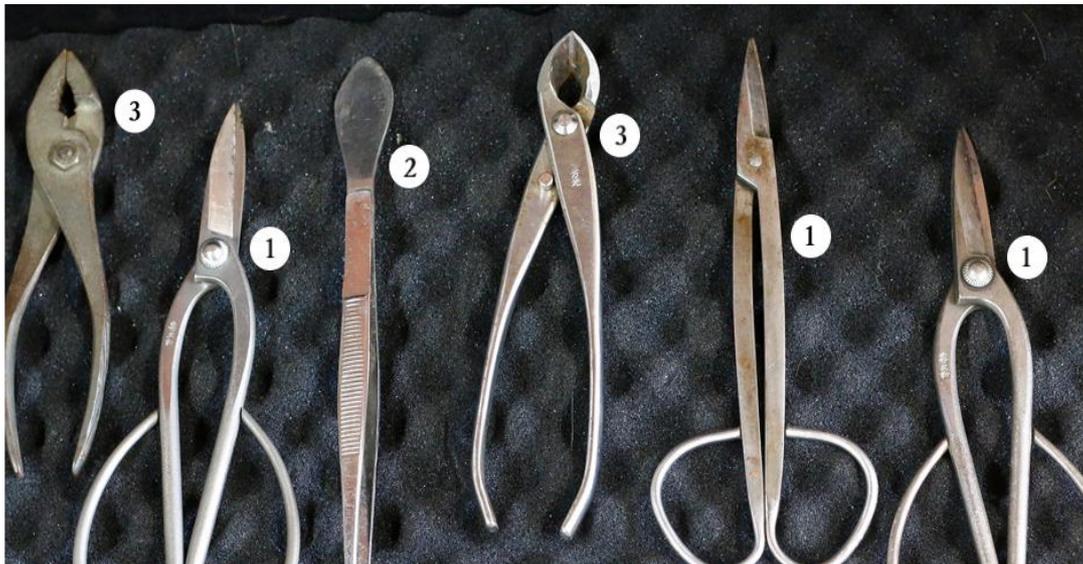


時間の経過とともに、木は過酷な気象条件の結果として、幹の皮が剥がれ落ちたり一部が枯れてしまうことがある。自然界では強烈な日光等により、その部分が白く変色する。盆栽ではその状態を表現するため、時に樹皮をナイフで削ったり、削った部分を白くして腐食を防ぐために石灰硫黄合剤を塗る。

2. 必要な道具と盆栽のお手入れ方法

2.1. 必要な道具

最低限揃えておけば大丈夫！という内容を紹介する。もちろんプロになると道具の種類が増え、それを使いこなして盆栽を管理する。植え替えの道具に関しては、必要なタイミングでの購入でもいいだ。



1. 盆栽ばさみ --- 切れ味が良いものに。悪いと剪定する際、枝を傷つけてしまう。
2. へら付きピンセット --- 盆栽に生えた雑草を取り除いたり、土をならす時に必要だ。
3. やつとこ --- 針金を巻き付ける際必要。ペンチでの代用も可
  - ア. 針金と針金切り --- 針金かけで必要だ。
  - イ. じょうろ --- やさしく盆栽に水やりするために必要だ。
  - ウ. 竹箸 --- 針金かけで必要だ。
  - エ. 鉢底ネット --- 植え替え時必要。金属だと根が痛むので、自然素材がよい。
  - オ. 土入れ --- 植え替え時必要だ。

## 2.2. 盆栽のお手入れ方法

四季を楽しむ盆栽は、その育て方も春夏秋冬で違って来る。「水やり3年」という言葉があるくらい、適切なタイミングを植物ごとにみきわめるのには時間がかかる。

よく観察をして、土が乾いていたらじょうろでゆっくりと、たっぷり与えるが基本的だ。季節ごとのポイントを押さえて、美しい盆栽を育てる。

春 — 1日1回、土が乾いていたら鉢底穴から水が流れ出るくらいまんべんなく水する。

夏 — 1日2回から3回行う。朝・夕たっぷりと与える。夏は水切れを起こさないように要注意。

秋 — 1日1回から2回行う。鉢底穴から流れ出るくらいの分量。

冬 — 2日に1回程度。昼間の暖かい時間帯に行く。

## 2.3. 植え替え時期

3月のお彼岸<sup>ひがん</sup>が終わったあたりから、4月くらいにかけて行う。盆栽<sup>盆栽</sup>の種類<sup>しゅるい</sup>や鉢<sup>鉢</sup>の大小にもよりますが、購入<sup>こうにゆう</sup>から2-3年経過したら一度土<sup>ど</sup>の状態<sup>じょうたい</sup>をチェックする。水はけが悪くなっていたり、土の色<sup>つち</sup>が酸化<sup>さんか</sup>して黒ずんだりしてきたら植え替えのサインだ。土は中粒<sup>なかつぶ</sup>と小粒<sup>こつぶ</sup>の赤玉土<sup>あかだまつち</sup>を使用せられる。

## 2.4. 剪定方期

美しい樹形<sup>じゅけい たも</sup>を保つためにはこまめな剪定<sup>せんてい</sup>作業<sup>いさぎょう</sup>が不可欠<sup>ふかけつ</sup>。幹<sup>みき</sup>に対して醜<sup>みにく</sup>い枝<sup>枝</sup>を「忌み枝<sup>もと</sup>(いたみえだ)」と呼び、それを元<sup>もと</sup>から切っていくのが盆栽<sup>盆栽</sup>の剪定<sup>せんてい</sup>だ。ここでは見つけやすい忌み枝<sup>い</sup>をいくつか紹介する。

- ア. 下向き枝<sup>したむ</sup> --- 枝から下向きに出る
- イ. 枝幹切り枝<sup>えだみき</sup> --- 幹<sup>みき</sup>を横切る枝<sup>よこぎ</sup>
- ウ. 突き出し枝<sup>つ</sup> --- 木の正面<sup>しょうめん</sup>から鑑賞者<sup>かんしょうしゃ</sup>に向かって生えている
- エ. 枝逆さ枝<sup>えださか</sup> --- 枝<sup>の</sup>の伸びる方向<sup>ぎやくむ</sup>と逆向きに生えてしまった枝。  
針金掛<sup>はりかねが</sup>けで向きを直すか、元から切る。

剪定作業を行う際は必ず切れ味がよい剪定ばさみを使用する。普通のはさみだと枝を潰すように切ってしまう、傷つけてしまう可能性がある。

## 3. フライング盆栽-日本のユニークな発明

フライング盆栽は日本の研究グループの伝統<sup>でんとうてき</sup>的な技術<sup>ぎじゆつ</sup>と現代的な技術<sup>技術</sup>を組み合わせ<sup>く</sup>たものだ。宙<sup>う</sup>に浮いたり回転<sup>かいてん</sup>したりすることができる芸術作品だ。

それは多くの人々に奇妙<sup>きみょう</sup>さをもたらした。新しい傾向<sup>けいこう</sup>として、盆栽の木はプレイヤーによって最小<sup>さいしょうか</sup>化されている。それは非常に小さく、素敵<sup>すてき</sup>な

木で、<sup>さいしん</sup>細心の<sup>はら</sup>注意を払ってデザインされている。これらの木は、リビングテーブル、机、または家の中で最も美しい<sup>いち</sup>位置<sup>はいち</sup>に配置される。日本の<sup>しよくにん</sup>職人がそこからエア盆栽を<sup>こうあん</sup>考案した。



フライング盆栽は2つの部分で<sup>こうせい</sup>構成されている。

ア. ミニ盆栽の切り株はマグネットがついている。これはシステム全体の<sup>ずのう</sup>頭脳と見なされる。<sup>じりよく</sup>磁力を<sup>はっ</sup>発し、<sup>かいてんきこう</sup>回転機構で盆栽上部を<sup>じょうぶ</sup>均一に<sup>きんいつ</sup>回転させる。

イ. <sup>そうしよく</sup>装飾ベースは<sup>はんぱつりよく</sup>反発力を生み出し、<sup>じば</sup>磁場のバランスをとる場所だ。このベースには底部に電気スロットがある。<sup>でんげん</sup>電源に<sup>せつぞく</sup>接続すると、<sup>ひかり</sup>光信号が<sup>はっせい</sup>発生する。面の上部が<sup>かがみ</sup>鏡でできている。<sup>でんとうてき</sup>伝統的な<sup>いまり</sup>伊万里の<sup>とうき</sup>陶器でできている。

フライング盆栽に関する<sup>ぎじゅつじょうほう</sup>技術情報

ア. <sup>き</sup>切り株の<sup>かぶ</sup>重量は300グラムを<sup>じゅうりょう</sup>超えてはならない。<sup>ちょう</sup>

イ. 盆栽の根元には通常の木と同じように水をやり、育てる必要がある。

ウ. 必要に応じて垂直に美しく飛んでいるのが見える際に、剪定によって盆栽の木のバランスを確保する

エ. 盆栽の付け根の間の距離は2センチメートルだ。

オ. ベースの直径は6-8センチメートルだ。

リビング盆栽は最初に見た人に驚きをもたらす。現在、さまざまなサイズのポットのデザインが主に小さな盆栽植物や美しい観賞植物に使用されている。ユーザーが最も快適なものを簡単に選択できるように、さまざまな装飾スタイル、色、形状。

### III. 日本の盆栽と他の国の違い

東洋では、人間と自然植物の間には密接な関係がある。人間の目に自然を最小限に抑えることは植物を鉢に持ってくる。盆栽は中国で生まれるが、日本で普及した芸術だ。その後、その美しさや独自性からベトナムなどのアジア諸国にも広まった。さまざまな国での植栽により、盆栽には共通のポイントと独特の特徴がある。

#### 1. 盆栽の国の共通点

盆栽を一言でいうならばアートだ。自然の風景にある世界観を植物と鉢を使って表現したものが盆栽といえ、鉢の中で育てた植物を愛でる鉢植えとは観賞の仕方が大きく異なる。

植物は生き物なので、成長が止まらない。これにより、ツリーは常にその形状を変更する。創造性によって、人々は植物のサイズを縮小し、それを鍋の中で古い木に変える。アートの面では木が完璧でシンプ

ルな方法でその美しさを明らかにできるように、<sup>せんたくてき</sup>選択的に、<sup>めんどう</sup>面倒な  
<sup>しょうさい</sup>詳細を<sup>さくじょ</sup>削除し、<sup>ひつよう</sup>必要な<sup>ようそ</sup>要素のみを<sup>ほじ</sup>保持する方法を知る必要がある。  
<sup>ひつよう</sup>

どこにいても、<sup>げいじゅつか</sup>芸術家は常に<sup>つね</sup>盆栽を<sup>つね</sup>生きた芸術作品と考えている。  
<sup>めいしやう</sup>名匠は<sup>ちやうこくか</sup>アーティストの<sup>めいしやうわざ</sup>心と<sup>くわ</sup>彫刻家の<sup>くわ</sup>名匠技に加えて、<sup>くわ</sup>盆栽を<sup>くわ</sup>植える方  
<sup>かんぜん</sup>法についてもかなり<sup>りかい</sup>完全に<sup>げいじゅつか</sup>理解している。<sup>はつたつ</sup>芸術家は<sup>はつたつ</sup>各植物の<sup>はつたつ</sup>成長、<sup>はつたつ</sup>発達、  
<sup>ひつようせい</sup>生理学的<sup>りかい</sup>必要性を理解する必要がある。<sup>へんこう</sup>木を<sup>へんこう</sup>育て、<sup>ととの</sup>変更し、<sup>ととの</sup>形を整え、  
<sup>ゆた</sup>自然のままの木々が<sup>ゆた</sup>豊かになるように<sup>ゆた</sup>世話することができるようにする  
<sup>かくき</sup>ために<sup>かくき</sup>各木の<sup>どくとく</sup>デザインには<sup>みりよくてき</sup>独特で<sup>みりよくてき</sup>魅力的な<sup>みりよくてき</sup>美しさがある。近年その<sup>みりよくてき</sup>盆栽  
<sup>ひやうか</sup>が海外において<sup>ひやうか</sup>評価が高まっており、<sup>ひやうか</sup>ちょっとした<sup>ひやうか</sup>ブームとなっている。

ベトナム、日本、中国では、<sup>せいしん</sup>盆栽精神の<sup>せいしん</sup>中心は<sup>ちか</sup>人々を<sup>ちか</sup>自然に<sup>ちか</sup>近づけ、<sup>ちか</sup>自然  
<sup>ちか</sup>と<sup>ちか</sup>調和し、<sup>ちか</sup>自分自身のような<sup>ちか</sup>自然を<sup>ちか</sup>愛する<sup>ちか</sup>努力だ。  
<sup>どりよく</sup>

## 2. 盆栽の国の違い

### 2.1. 日本の盆栽と中国の比較<sup>ひかく</sup>

#### 2.1.1. 中国の盆栽について

中国は盆栽の日本の芸術の<sup>きげん</sup>起源だ。盆栽といえば、日本の伝統文化だと思  
<sup>きげん</sup>っている人もいるかもしれないが、盆栽が中国で生まれたことを知っ  
<sup>きげん</sup>ている人はほとんどいない。少なくとも 2500 年前には、中国で<sup>すで</sup>既に木  
<sup>はち</sup>を鉢に<sup>そだ</sup>植えて<sup>そだ</sup>育てる<sup>そだ</sup>趣味があったと言われており、<sup>とう</sup>唐の<sup>いせき</sup>時代の<sup>いせき</sup>遺跡には  
<sup>はちう</sup>鉢<sup>へきが</sup>植えの<sup>へきが</sup>壁画が見つかっていること  
<sup>そうとうひろ</sup>から、そのころにはすでに<sup>そうとうひろ</sup>相当広ま  
<sup>もとおうちやう</sup>っていたようだ。元王朝時代  
<sup>もとおうちやう</sup>（1280 年から 1368 年まで）日本の  
<sup>だいじん</sup>大臣や<sup>しょうにん</sup>商人は盆栽を中国から日本  
<sup>こ</sup>に<sup>こ</sup>持ち込んだ。贈り物として見る。  
<sup>もと</sup>そこから日本人が<sup>もと</sup>求めた。そして盆  
<sup>もと</sup>栽の芸術のためのユニークな<sup>もと</sup>スタイ

# 盆景

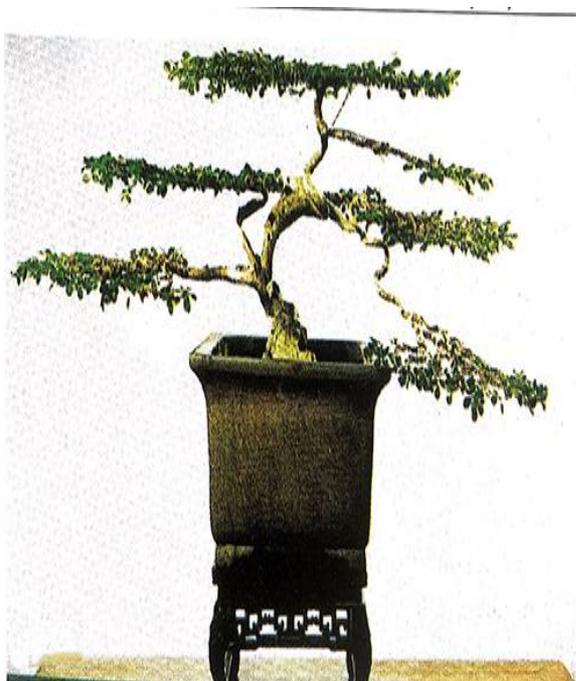
ルを作成する。しかし、中国も同様だ。古くから、中国も独自の学校とスタイルも作った。ペンジーンと呼ばれる。

ペンジーンは中国のミニチュア風景を作成する芸術だ。盆栽は鉢植えの植物で、古いミニチュアの木のように見えるが、ペンジーンは 2 文字の鉢の中の風景よりも広い意味を持っている。

盆（ペン）：鍋と景（景）：シーン。

中国の領土は大きなだ。北と南の間に地理的および気候条件が異なるため、植物、水、および岩の資源は豊富であるだけでなく、多様でもある。長期的な発展の過程で、盆栽の芸術は習慣やさまざまな地域の文化的概念の影響を受け、それによって徐々に木の芸術のさまざまなスタイルや学校が形成されている。

#### i. 揚州派



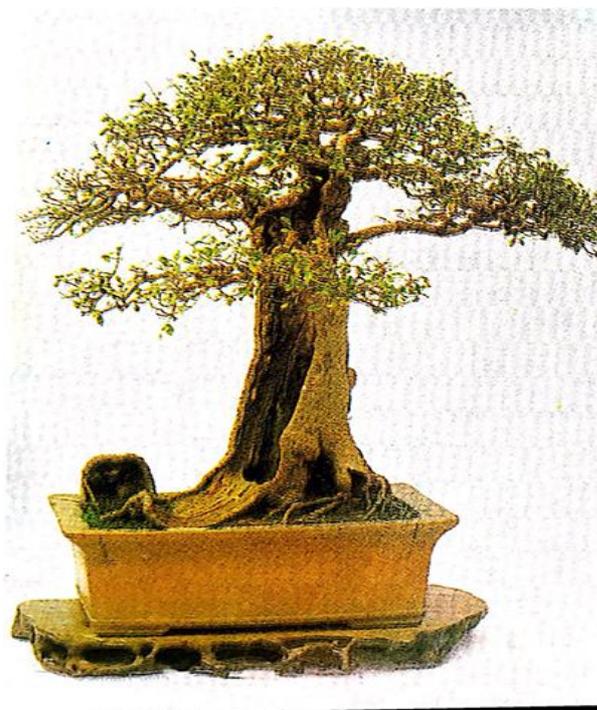
揚州派は揚州市の名前から呼ばれる芸術的な盆栽だ。この派には Duong Chau、Thai Hung、Diem Thanh、Cao Biao、Thai Chau ... の地域が含まれている。揚州市が中心だ。長い歴史を持ち、国内（中国）のアーティストから尊敬されている。揚州派のデザインの特徴は南部の美しさと北部の美しさの両方を持っている。形状と繊細な剪定は枝と薄い葉をに作り、茎の曲率と組み合わせる。これは伝統的な形。（一周が3回曲がる）

ii. <sup>みねみなみは</sup>嶺南派



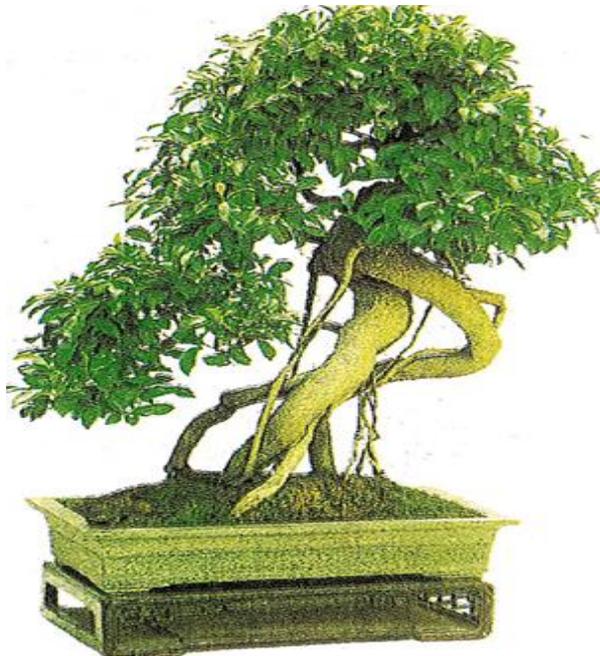
これは中国の嶺南地域の名前から呼ばれる盆栽派だ。この派には <sup>こうしゅう</sup> 広州が中心だ。 <sup>かんとん</sup> 広東と <sup>ひろにし</sup> 広西を含む。盆栽嶺南の <sup>とくちょう</sup> 特徴は自然だ。 <sup>とくてい</sup> 特定のサイズに <sup>と</sup> 遂げると、 <sup>せんてい</sup> 剪定が行われる。

iii. <sup>そしゅうは</sup>蘇州派



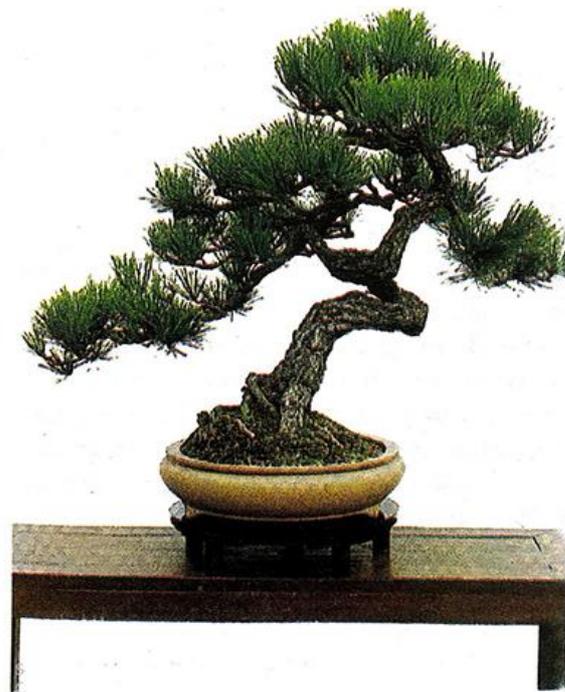
<sup>そしゅうは</sup> 蘇州派は <sup>こうそしゅう</sup> 江蘇省、 <sup>そしゅう</sup> 蘇州の名前から呼ばれる芸術的な盆栽だ。この派には To Chau, Vo Tich, Thuong Thuc, Thuong Chau ... の <sup>ちいき</sup> 地域が <sup>ふく</sup> 含まれている。蘇州が中心だ。蘇州派のスタイルは <sup>ひか</sup> 控えめで、 <sup>ゆうが</sup> 優雅だ。蘇州派は何度も曲がる木の <sup>みき</sup> 幹がある。一番高い <sup>いただき</sup> 頂の上にあることを「一頂」と呼ぶ。今日では、蘇州派は伝統的な形に <sup>しば</sup> 縛られていない。 <sup>せいけい</sup> 整形方法は <sup>つうじょう</sup> 通常、粗い束であり、 <sup>しんちょう</sup> 慎重に <sup>せんてい</sup> 剪定され、枝を故意に <sup>こい</sup> 太く <sup>ふとし</sup> にする。

iv. <sup>しせんは</sup> 四川派



<sup>しせんは</sup> 四川派は四川省の名前から呼ばれる芸術的な盆栽だ。この派には On Giang, Sung Khanh, Tan Do ... の <sup>ちいき</sup> 地域が含まれている。成都が中心だ。 <sup>がいこんとくせい</sup> 外観特性は <sup>こてい</sup> 固定されていない。四川盆栽は <sup>りったいてき</sup> 立体的な空間に注意を払うことに加えて、 <sup>かぶ</sup> 切り株と <sup>あつか</sup> 根の取り扱いにも特に <sup>じゅうてん</sup> 重点を置いている。 <sup>ふゆうね</sup> 切り株と浮遊根に死んだ目を作る。

v. <sup>しゃんはいは</sup> 上海派



<sup>しゃんはいは</sup> 上海派は上海市の名前から呼ばれる芸術的な盆栽だ。上海は経済と文化と交通が <sup>はったつ</sup> 発達した大都市だ。 <sup>かこすう</sup> 過去数十年、上海での日本の盆栽の <sup>ふきゅう</sup> 普及により、上海派は独自の <sup>きんぞくせん</sup> アートスタイルを生み出した。とても自然で、 <sup>けんこう</sup> 健康なことで有名だ。この派の形は主に <sup>きんぞくせん</sup> 金属線を使って枝を曲げている。 <sup>きほんてき</sup> 形状が基本的に完成したら、 <sup>けいじょう</sup> 目的の形状を <sup>さくせい</sup> 作成するために <sup>せんてい</sup> ゆっくりと枝を剪定する。

## 2.1.2. 中国の盆栽は違う

日本と中国の盆栽の違いは美学、地理、原材料にある。風景は盆栽の繊細な美しさを示すだけでなく、全体にも焦点を当てている。とてもソウルフルな自然のシーンを再現する。

盆景の一部は木だけでなく、岩にも組み込まれている。材料は鍋に配置され、装飾が施された木製の棚に置かれる。さらに、盆景は空間構造に適切な比率を作成するために、小さなセラミック像で装飾されている。木については日本の盆栽のようなもので、苗を選んで世話をし、奇妙な形にし、古代の特徴を生かして野生の古い木と同じ大きさを思い出させる。

盆栽の芸術には大きな違いがある。「盆栽」は「鉢植え」だ。ペンジン は「鉢植えの風景」だ。したがって、盆栽は風景よりも狭義に定義される。多くの美しく繊細なシーンは日本の盆栽のルールに従わない中国人アーティストによって作られている。

中国では、日本人は細かすぎると言われることもあるが、それも日本の良さの1つではないだろうか。「緻密さ」が特徴の日本人だからこそ、盆栽をここまで発展させられたのかもしれない。

要するに、中国の人々は大きな根が空洞で満たされた露出した根が特に好きだ。あいつらは線ではなく全体に焦点を当てている。あいつらは情熱的に山の美しさを楽しんでいる。盆栽以外にも石やアクセサリがある。中国の人々は観賞用の盆景で成功している。

## 2.2. 日本の盆栽とベトナムの比較

### 2.2.1. ベトナムの盆栽について

ベトナムは湿度の<sup>しつど</sup>高い<sup>ねったい</sup>熱帯<sup>きこう</sup>モンスーン気候の国だ。したがって、この場所は盆栽の<sup>はってん</sup>芸術を<sup>はってん</sup>発展させるのに好ましい場所になる。

問題は常に<sup>つね</sup>残る<sup>のこ</sup>：「ベトナムの盆栽はいつ発見されましたか？」しかし、ベトナムの盆栽も長い<sup>あいだ</sup>間存在<sup>そんざい</sup>していたことは確かだ。日本のように、盆栽は中国で生まれた。1000年まえに、ベトナムと中国は2つの<sup>りんせつ</sup>隣接する国でもあり、古代から<sup>こうりゅう</sup>交流でもある。中国文化の<sup>しんずい</sup>真髓を<sup>きゅうしゅう</sup>吸収するといえども、私たちは依然として国の<sup>いぜん</sup>美しさと<sup>ほんしつ</sup>本質を<sup>ほじ</sup>保持している。<sup>ぶつきょう</sup>仏教も非常に早い<sup>じき</sup>時期に我が国に入った。盆栽の木は<sup>おうきゅう</sup>王宮、寺院、<sup>おうじ</sup>王子の<sup>あらわ</sup>家族に<sup>おうちょう</sup>最初に<sup>じゅきょう</sup>現れた。リ王朝（1010 - 1225）の間、<sup>はってん</sup>儒教と<sup>ぶつきょうと</sup>仏教が<sup>ふつ</sup>発展した。この頃、<sup>すうはい</sup>仏教徒は<sup>しゅうどういん</sup>ロッカリーでのみ<sup>しゅうどういん</sup>利用できる。したがって、ベトナムの盆栽（ロッカリー）は11世紀に<sup>とうじょう</sup>登場し、<sup>きろく</sup>記録された。

以前は、盆栽の<sup>さんぱつてき</sup>趣味はまだ<sup>りろん</sup>散発的であったため、<sup>かくは</sup>理論がなく、<sup>かくは</sup>各派を形成されなかった。1975年後、特に<sup>かいかくご</sup>改革後、<sup>こくさい</sup>国際および国内の<sup>こうりゅう</sup>交流が<sup>かくだい</sup>拡大し、盆栽が開発された。南部と北部では、<sup>こと</sup>楽しみ方や作り方が異なる。南部では、このセクターもより<sup>かっぱつ</sup>活発になった。盆栽の<sup>かいさい</sup>技法について学び、このアートはさまざまな<sup>かいさい</sup>場所で開催されている。ますます多くの<sup>かいさい</sup>人々が盆栽に興味を持っている。

## 2.2.2. ベトナムの盆栽は違う

中国や日本ではミニツリー、小さな木、中の木が好く。しかしベトナムでは<sup>ちゅうがた</sup>中型と<sup>おおがた</sup>大型の木が好く。<sup>はちう</sup>鉢植えの<sup>くわ</sup>遊びのスタイルに加えて、ベトナムの盆栽が大きくて<sup>かち</sup>ゴツゴツしているほど、その<sup>かち</sup>価値は高くなる。

ベトナムの盆栽には<sup>でんとう</sup>伝統がある。ベトナムではハノイ、ハイフォン、フエ、ダナン、ホーチミンなどの<sup>だいとし</sup>大都市から、北および南の他の州まで、

盆栽の芸術家がいたところにいる。しかし、多くの理由から、人気は日本ほど広くない。

現在、世界全体、特にベトナムでは、盆栽は4つの主要なグループに分けられている。

ア. 高さ約 15 センチメートルの木は非常に小さな木またはミニ木だ。

イ. 高さが 16 センチメートルから 30 センチメートルの間の木は小さな木と呼ばれる。

ウ. 高さが 31 センチメートルから 60 センチメートルの間の木は中の木と呼ばれる。

エ. 高さ約 61 センチメートル以上の木は大木と呼ばれる。

ベトナムの古代盆栽の形は人々の繁栄、繁栄、善への願望を表現するために、古典や哲学と関連付けられることがよくある。一般木の形は四霊、まっすぐなドラゴン、空飛ぶドラゴン、鹿、塔のような置物だ。または、母子、父子、兄弟のような優しさを表す。さらに、ベトナムの盆栽もセットで配置されている：龍麟亀鳳、枚蘭菊竹、または松菊竹枚。

要するに、日本や中国のように、ベトナムの盆栽は細心の注意と、アーティストから送られた作品の魂を示している。しかし、ベトナムの盆栽は特定の形状のために、より明確な感覚をもたらす。盆栽アーティストの作成は常にアーティストのアイデアに基づいているが、このアイデアは他の誰とも異なる。しかし、一般的に目に見えないものは古代からの盆栽の芸術の規則に従って、方法が非常に似ている。職人は木の形、仕事の意味に焦点を合わせている。これらのことはベトナムの人々の精神を示している：忍耐力、率直さ、シンプルさ、そして慈善に満ちている。

有名な展示会に出席しているベトナムの盆栽の写真だ。



# 結論

盆栽は長い歴史を持つ高貴な趣味だ。昔々、それは諸侯と貴族に芸術形式だ。近年、生活水準の向上により、盆栽は庶民の日常生活にも広く浸透し、多くの方々から後押し集めている。

盆栽は人間の美的方向性と美意識にわずかに影響を与える。それは私たちの日常の文化的生活の多様性を高め、風景や環境を美しくし、人々が美しさを楽しむことを可能にするだけでなく、個性と感情を作り上げる。

一般的に、盆栽は自然の真の描写だ。盆栽は自然の風景を描くだけでなく、アーティストを通して独自性を表現している。自然から派生したものを自然よりも高くする。それ以来、芸術的な効果を生み出している。古くから、人間の生活は常に自然と結びついている。したがって、自然の前にいる人は誰でも、心の中で軽くリラックスして、ストレスの多い労働時間後のストレスを軽減する。今日、技術文明と都市化が人々を自然から切り離し、日常生活のストレスの多い忙しさが人々を自然からますます遠ざけているのであれば、盆栽は人々に急いで戻るように熱心に呼びかけるのと同じだ。盆栽に戻ることは、人々が魂の平和と静けさを見つけ、そして再び自分自身を見つけるミニチュアの自然に戻る。それは人と人との間、そして人と自然の間の神秘的な無私の愛だ。

要するに、植物の性質は人間の親しい友人としての生命の源であり、人々がそれを評価しなければ、自然を消滅させ、地球は死の砂漠なる。

## 参考文献

1. Nguyễn Khắc Oánh (2007) 『Nghệ thuật Bonsai, cây cảnh』
2. Võ Văn Chi - Trần Hợp – Trịnh Minh Tân (1993) 『Bonsai』
3. Ngô Quang Đê (2002) 『Nghệ thuật chậu cảnh, Bonsai – Non bộ』
4. 山田 香織 (2010) 『はじめての盆栽 作り方&育て方』
5. 小林 健二 (2017) 『あたらしい盆栽の教科書 —ちいさな景色盆栽をつくる・愛でる・育てる』
6. <https://www.bonsaiempire.jp/bonsaitoha/bonsai-rekishu>
7. <http://redsvn.net/nhung-net-khai-quat-ve-nghe-thuat-bonsai-nhat-ban2/>
8. <https://sawa.vn/bonsai-bay/>
9. <https://vi.wikipedia.org/wiki/Bonsai>
10. <https://www.caycanhthanglong.vn/mot-so-truong-phai-bonsai-cua-trung-quoc.html>
11. <http://codai.net/danh-sach-cac-trien-lam-su-kien-bonsai-o-nhat-bonsai-exhibitions-in-japan/>
12. <http://agrimark.org/kham-pha-trien-lam-genko-kai/>
13. <http://caycanhthiennhien.com/index.php?threads/tri%E1%BB%83n-l%C3%A3m-kokufu-ten-2018.5836/>
14. <https://www.magiminiland.org/Days/Kokufuten.html>
15. <https://www.bonsaiempire.jp/bonsaitoha/bonsai-jukei>